

旭川医大 病院ニュース



(編集) 旭川医科大学医学部附属病院
広報誌編集委員会委員長
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/> (附属病院)



旭川医科大学理事として

理事(非常勤)(現 旭川大学経済学部教授) 小野崎 保

理事という大役を拝命してから、早いもので5ヶ月が過ぎようとしている。この間、本務校との組織構成の違い、学部の性格の違いなどに若干の戸惑いを覚えつつも、旭川医大の全体像をおぼろげながら掌握するよう務めてきた。社会貢献担当というサブタイトルを頂戴しているので、地域社会にどのように貢献しているか、またしていくべきかなどについてしかと考えよ、という課題を与えられたわけである。外の人間として、偏りなく客観的に見つめていくことが責務であると心得ている。この場をお借りして、社会貢献の捉え方について筆者なりの基本的考え方を明らかにさせていただく。

先に逃げを打つつもりはないが、社会貢献をどのように評価するかはかなり難しい問題を孕んでいる。まず経済学的見地からは、医学部および附属病院が地域経済へどれだけの経済波及効果を与えているかを、産業連関表という統計を用いて具体的な数値として計算することができる。経済波及効果は、政策手段などがどれほど有効であるかを、費用対効果という観点から把握する目的で計算される。多少冗長になるが、具体的な経済波及効果の伝播経路について公共事業を例に考えてみよう。ある公共事業が実施された場合、その投資額は建設業などにまず流れ、そこからさまざまな資材などが発注されることによって、いろいろな産業にカネが流れていく。かくしてさまざまな産業に対して新たな需要が生み出される。需要が増加するとそれに見合うだけの生産がなされ、結局はいろいろな人に新たな所得が派生する。所得が増加すればそのうちの一部は消費に支出され、新たな需要を生み出す。需要が増えればそれに見合う分だけ生産が増え……という「需要生産所得需要」の連鎖が続くことになる。このような一連のカネの循環が経済波及効果の伝播経路であり、このプロセスを通じて増加した生産の総額が経済波及効果の規模を表している。平たく言えば、まとまった額のカネが経済に落ちた場合、それ

によって直接・間接に新たな生産がどれだけ誘発されるかが経済波及効果の正体である。コンピュータを使えば計算は容易である。

さて、経済波及効果はこのように定量的に把握することができるが、これはあくまで市場での取引を通じたカネのやり取りの側面を捉えたものに過ぎないということに留意すべきである。ある経済行為が市場を通さずに社会に対して何らかの影響を及ぼす場合、経済学ではこれを外部効果と呼んでいる。古典的な例として、養蜂業者と果樹園の関係が挙げられる。養蜂業者と果樹園が隣接する場合には、養蜂業者は良質な花蜜が得られるが、果樹園に対して対価を支払うことはない。また、果樹園は受粉の手間が減るが、養蜂業者に対価を支払うことはない。この場合、相互にプラスの外部経済を受けてことになる。マイナスの外部効果の典型例は公害である。外部効果は市場での取引を介さないで、一般に金銭的に評価することがきわめて難しいか、不可能である。この概念を医学部に適用するならば、たとえば「学生を育てて医師を世に送り出す」という機能は、社会に対してきわめて大きいプラスの外部効果を有していると考えられる。この機能が金銭的に評価されて、何らかのかたちで社会から徴収され医学部の収入の一部を構成しているという話しはついぞ聞いたことがない。

経済行為の社会に対する影響度を評価する場合、外部効果のように定量化しにくい、あるいは定量化が不可能な側面を忘れず考慮に入れることが肝要である。医学部および附属病院の社会貢献に関しては、金銭的な経済波及効果が大きいことはもちろんであるが、金銭的に把握できないプラスの外部効果こそが絶大であろうと推察される。定量化という客観性の高い手法が使えないため、外部効果の評価にはかなりの程度主観が混入するのはやむを得ない。そうであるからこそ、裁判官の如き公平性・中立性をもってあたることが要求されるのである。



五輪と病気と監事心得と

監事 河村 猛 将

オリンピックの夏、TVの前で懲りずに重ねる夜更かしの日々。この日を目指して厳しい練習や試練に耐えてきた選手への応援歌「栄光の架橋」。

誰にも見せない涙があった、人知れず流した涙があった……悔しくて眠れなかった夜があった、恐くて震えていた夜があった、もう駄目だと全てが嫌になって逃げ出そうとした時も……

しかし、目前に迫った受験への不安や仕事での行き詰まり、時には失恋の傷心など、何もかも投げ出してしまいたいとか魔法の杖に縋りたい心境に陥ることは、アスリートに限らず誰にだってあるに違いない。思いもよらぬ病気に罹ったときもそうだろう。旭川医大附属病院の目標1が「病める人を思い遣り……心の通い合う医療」と、心の温もりを説く所以でもあろうか。

今年の新入生合同研修。どんな医療従事者を目指すか話し合ったことを、グループの代表者が発表していた。「患者とのコミュニケーションを大切にしたい」「思い遣りの心を忘れずに」などの意見が述べられ、あるグループは愛の一字をスクリーンに映しながら「医療は愛です！」と締め括った。明日の病院の担い手として期待される、元気はつらつとした一年生にはすでに目標第1の精神が芽吹いており「人間性豊かな医療人の育成」という目標第4を実感したひとコマであった。さて目標第3には「予防・健康医学などに積極的に取り組み……」とある。治療も大事だが、罹らぬ努力を怠ってならないのは人も組織も同じこと。世論の厳しい批判を受ける病重篤な組織が後を絶たない昨今、監事の職分は予防が第一義と肝に銘じて取り組みたい。

74歳でこれから

監事（非常勤） 前田 敬 道



先日、ある会合で現在74歳であるにもかかわらず、人生これからと元気で頑張っている経営者の講演を拝聴する機会に恵まれ、大いなる刺激を受けた。現在は地方都市でシティホテルなどの経営に携わっており、地域では成功者の一人として知られているようである。

講師は韓国籍であったことなどのハンデにより、貧困、差別などの中で、20を越える職業を転々としながらも今日の成功と地位を占めることが出来たようである。

その講演のポイントは次のようなことであった。

1 自分の物差しが基本

所詮人間は自分の物差しで物事を計ったり、判断したりするものである。したがって、物差しを出来るだけ大きく、緻密なものにする必要がある。

2 災い転じて福となす

大小を問わず人は必ず災いなどに遭遇するもの

である。問題は遭遇した災いを経験として生かせるかどうかである。

3 人は環境次第

人は一口に環境の動物であるといわれるが、環境は与えられるものではなく自分で創るものである。特に、人間関係などの環境は目的意識、意欲、日常の行動などによって幾らでも変わるものである。

4 自分を大事にする。

自分を大事にすればするほど他人を大事にしたり、思いやりを持って接したりすることになる。なぜなら、因果応報で他人を粗末に扱えば自分にその結果が跳ね返り、結果として自分を粗末にすることになるからである。

物事の考え方が本当にポジティブでしかも、年齢を感じさせない若々しさが漲っており、約1時間の講演が短く感じられた。

俺も負けちゃいけないぞと考えさせられました。

国際協力事業団 (JICA) 研修 集団「母子保健人材育成」コースを迎えて

看護部 高橋 陽子

2000年、国連において発表された8つのミレニアム開発目標の中に、母子保健に関わる乳幼児死亡率の低下と妊産婦健康状態の改善が掲げられています。本研修、集団「母子保健人材育成」コースは、これらの問題を抱える開発途上国に、旭川を含む道北地域の看護行政システムや人材育成を紹介することで、看護職の人材育成、地方における看護職と行政職の連携など有益な研修を提供できるものと、旭川医科大学看護学科が昨年度より実施しています。

当看護部は、6月8日・6月9日・6月11日の3日間、研修の一部である「看護職の人材育成」院内教育に関する説明と実施状況 - を担当させて頂きました。エジプト、グルジア、ラオス、モンゴル、ニジェール、タンザニアから9名の研修生（各国の看護師長、大学教官等）に、石川病院長の「日本における周産期死亡率と妊婦死亡率について」の特別講義をはじめとし、当院の卒後院内教育の実情、新卒者研修の見学、周産母子センターの妊産婦・育児支援、専門分野の看護職の活動、他職種との連携な

どを紹介いたしました。

英語力がなく身ぶり手ぶりと通訳の南さんの力を借りての3日間でしたが、次第に心が通じ、自国の課題に真剣に取り組む研修生の目標達成のため、帝王切開手術、人工透析の見学、脳血管疾患の治療と予防に関する医師へのインタビューなど、患者様、コメディカル、多くの医師、看護師の方々の協力を頂きました。今後、私達の具体的な課題は、資料は事前に翻訳準備する。映像によるプレゼンテーションは英語で表示する。簡単な日常会話はマスターする。などです。別れを惜しみながら帰られた研修生の方々も自国の課題に向かい取り組んでいることでしょう。



新生!! 薬剤部

副部長 藤田 育志

薬剤部が新しくなりました。病棟の増改築に伴い、外来棟の1階部分にあった部署と薬剤部長室・薬品情報室が、旧ロッカーーム・病院会議室等のあった部分に移転・統合しました。つまり、職員玄関へ通じる廊下を隔てて左右が薬剤部になりました。

今回の移転にあたって薬剤部の業務系統について、従来の室制から薬剤師の業務の合理化・円滑化を図ることを目的に、大きく三つの分野、つまり「調

剤・麻薬・試験薬管理」「薬務・医療品情報・試験研究」「製剤・注射薬」部門に分けて見直しを行い、それに見合ったレイアウトに改装されています。

薬剤部から発信する案内文書については各部署間の連絡を密にし、統一化に努めています。また、注射薬の混合調剤業務については製剤室と混注センターに分かれて行っていましたが、これが『注射薬混合調剤センター』として統合され、病棟移転及び再編成に伴う要因もあり全病棟を対象に業務を行っています。更に、従来から業務は行っていましたが、新たにTDM専用の『TDM測定室』を設けました。現在11種類の薬物についてその血中濃度測定を行い、個々人の患者さんに最適な薬物投与設計支援を行っています。薬剤管理指導業務に関しても担当薬剤師の連携を強め、指導件数も大幅に増加しています。

病院薬剤部の業務内容は多様化していますが、同一フロアーに部署が統合され職員間の連携も強くなりました。今後も更に一層薬剤師として適正な薬物療法の実践を追及していきたいと考えています。



(無菌室への入口)

「注射薬混合調剤センター」内



(更衣室とエアシャワー)



(無菌室内)



(「混注センター」への入り口およびパスボックス等)

新たに整備された無菌室のご紹介

第三内科 鳥本悦宏

最近では、化学療法感受性の悪性腫瘍に対する治療成績の向上を目的として造血幹細胞移植を代表とする強力な治療が行われるようになってきています。このような治療を安全に施行するためには、高度の骨髄抑制期間を無菌室で管理することが必須です。既存の病室を改修して完全な無菌室を作るとはスペースの制限があり難しく、小児科や我々の病棟では簡易無菌室でやりくりしてきました。今回、病棟改修の機会に4階西病棟内に4床の完全無菌室（クラス100）が、また、5階西病棟に2床の準無菌室（クラス10,000）が完備されました。完全無菌室内には、トイレ、シャワー付の無菌ユニットに加え、付き添いの方や医療スタッフが泊まれるスペースもあります。また、来訪者も専用の通路を通して窓越しに会話したり、別室からビデオモニターを通して

話したりできるように なっています。

造血幹細胞を利用した移植治療は、血液悪性腫瘍に限

らず、泌尿器科や婦人科領域の悪性腫瘍や、最近では大腸癌、膵癌でもその有用性が報告されてきており、今後ますます適応疾患が増えてくるものと考えられます。院内の共有施設として積極的に無菌室を利用していただきたいと思います。



大学づくりご意見メール

大学づくりご意見メール

このコーナーでは、職員さんからの学長への大学運営等に対する具体的な建設的なご意見、ご提案をお待ちしております。

- ・お寄せいただいたご意見等には、原則的に返答には戻りませんが、必要に応じて関係部署に轉送し、大学運営の参考とさせていただきます。
- ・内容等について担当職員からお返事する場合がありますので、又は、電話番号、メールアドレスは必ず記入するようにお願いします。

姓 名	<input type="text"/>	
名 刺	<input type="text"/>	※入力必須項目
電 話	<input type="text"/>	※入力必須項目
メールアドレス	<input type="text"/>	※入力必須項目
件 名	<input type="text"/>	
ご意見、ご提案	<input type="text"/>	

送信

入力した内容を
送信します。



ありがとうございました。

リセット

入力した内容を
取り消します。

職員の皆様から率直な意見、要望、提案などを提出してもらい、学内の教育、研究、診療及び事務の改善に生かすことを目的に、去る6月14日に、本学のホームページに「大学づくりご意見メール」を掲載しました。

ご意見等を提出いただく時には、氏名、電話番号及びメールアドレスが必須入力項目となっていますが、職員の皆様のプライバシーに配慮するため、管理は学長のみが行っていますので、安心して、どしどし、ご意見等をお寄せ下さい。

(総務課)



【薬剤部】

新薬紹介 (43)

塩酸ラロキシフェン錠 (エビスタ錠)

効能・効果

閉経後骨粗鬆症治療

用法・用量

通常、塩酸ラロキシフェンとして、1日1回60mg (1錠) を経口投与する。

特 徴

本剤は選択的エストロゲン受容体モジュレーター (SERM : Selective Estrogen Receptor Modulator) と呼ばれる、新しいカテゴリーに属する骨粗鬆症治療薬である。SERM に属する薬物は、エストロゲン誘導体であり、細胞核内のエストロゲン受容体に結合し、ある組織に対してはエストロゲンアゴニストとしての作用を示すと同時に、他組織ではアンタゴニストとしての作用を併せ持つ。第1世代SERMであるタモキシフェンは乳癌組織におけるエストロゲン

アンタゴニストであるが、子宮においては部分アゴニスト作用を示す。ラロキシフェンは、乳腺及び子宮に対してはエストロゲンアンタゴニストとして作用し、一方で骨においては、エストロゲンの完全アゴニストとして作用する。骨においては、ラロキシフェンの結合により、骨粗鬆症で活性が低下している骨関連の様々な遺伝子が活性化され、骨吸収抑制作用を発揮する。その作用の一部は、エストロゲンと同様に IL-6 産生抑制作用など、サイトカインを介したものであることが確認されている。

ラロキシフェンは、新規椎体骨折の発生頻度の低下や、骨密度を増加させ骨の質を維持することが、閉経後骨粗鬆症女性を対象とした種々の臨床試験において確認されており、本邦においても2004年4月23日に薬価基準収載となった。

静脈血栓塞栓症 (既往も含む) 抗リン脂質抗体症候群、長期不動状態 (術後回復期、長期安静期等) にある患者、妊婦または妊娠の可能性のある婦人などには本剤は禁忌となっている。

(薬品情報室 山田 武宏)

輸血部発 ③

新たな輸血医療の安全確保対策

我が国では、輸血用血液製剤による感染症予防のために最新のスクリーニング検査技術が導入されてきた。しかし、核酸増幅検査 (NAT) を導入しても、感染初期のウィンドウ・ピリオドに献血された血液から感染性ウイルスを検出して排除することは不可能である。実際、平成15年6月にB型肝炎ウイルスに感染していた供血者の血液が NAT 等の各種検査をすり抜け輸血され、受血者がB型肝炎に感染した可能性のあることが判明したため、供血血液でウイルス検査陽性が判明した場合は、過去に供血された血液を遡って調査するといういわゆる遡及調査が開始された。遡及調査の結果、12月にはHIVについても、感染症検査をすり抜け、感染していた事例があることが判明した。

このような状況の下、輸血用血液製剤の検査・製造体制を充実させるのみでなく、献血時における安全な血液の確保の推進や適正使用の推進等を総合的

に実施し、より安全・安心な輸血医療が行われるようにするため、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」がとりまとめられた。この中では、新たに供血者に関する対策が盛り込まれ、献血血液へのウイルス等が混入する頻度を低減するために、(1)健康な献血者の確保を推進すること、(2)感染直後のウィンドウ・ピリオドにある可能性のある者が自らの感染を確認する目的で行う検査目的献血を防止することがあげられている。また、(3)献血された血液に対するウイルスを不活化すること等により、血液製剤の検査・製造体制等を充実すること、(4)受血者 (患者) にウイルス感染等の健康被害ができるだけ生じないようにするため、医療現場における適正使用等を推進すること、(5)輸血後感染症対策等を推進することが国の方針として公表されている。

これらの対策のうち医療従事者としてできることは、適正使用を推進することである。今まで以上に、血液製剤の適正使用にはご留意下さい。

(輸血部副部長 紀野 修一)

NST (Nutrition Support Team)

栄養サポートチームの立ち上げについて

栄養管理室 齊藤 文子

全国規模で NST 設立が展開されており、本院でも是非、NST 活動を開始したいと考えてきました。医師・看護師・薬剤師・栄養士・臨床検査技師を構成メンバーとしてチームで患者個々の栄養管理を行えば、栄養面から患者治療をサポートすることが出来ます。基本的活動は低栄養状態の患者さんを抽出し、回診と検討、勉強会を行い適切な栄養管理を実施していくことになります。

目標は全科型ですが、まず手始めに第二外科の病棟から活動開始して実績を作り上げていきたいと思

います。

NST 活動による患者さんの病態を改善させることで、医療の合理化と経費削減による経済効果が期待できることから、病院経営にも有利になるように日本静脈経腸栄養学会では厚労省に実績を提示して NST 加算(仮称)を設けるように働きかけています。さらに病院機能評価項目 version5.0には NST 設置が明記されてきています。立ち上がったばかりですが、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

平成 16 年度 患者数等統計

区分	外来患者数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数 (一般病棟)
	初診	再診	延患者数								
4 月	人 1,262	人 22,715	人 23,977	人 1,141.8	% 59.58	% 54.44	人 13,123	人 437.4	% 72.66	% 81.77	日 19.12
5 月	1,195	20,488	21,683	1,204.6	60.35	51.21	15,488	499.6	82.99	82.62	22.83
6 月	1,302	22,989	24,291	1,104.1	61.82	52.53	16,317	543.9	90.35	79.77	20.20
計	3,759	66,192	69,951	1,150.2	60.58	52.73	44,928	493.6	82.00	81.39	20.72
同規模医科大学平均	4,230	53,835	58,065	952.1	73.12	49.08	46,753	513.8	84.73	85.92	22.39

稼働率は、承認病床数(602床)により算定している。

(経営企画課)

編集後記

今年は何年ぶりかの猛暑を迎えた。幸い本院の入院病棟は空調が完備され、入院患者さんは少なくとも暑さの面では快適な療養生活を続けることができた。しかし、外来診療棟は残念ながら古い設備のまま、いくら扇風機を回しても汗だくの外来診療を余儀なくされた。ましてや、受診された患者さんの苦痛は大変なものだったろう。

そんな中、いよいよ外来診療棟の改修が始まる。改修中には診療室を移転して外来診療を続ける。一時的とはいえ仮診療室を用いるのだから、設備上は外来患者さんの不都合が増えるものと予想される。不慣れな場所での作業は医療事故の誘因ともなるだろう。われわれ職員全員の細やかな気配り、心配り

がそのような問題を解決する大きな鍵となるだろう。残暑お見舞い申し上げます。

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科 野中 聡)

時事ニュース

- 7 / 8 入院患者不在者投票
- 7 / 12 事故防止啓発部会事例検討会
- 7 / 12 ボランティア連絡会
- 9 / 2、3 北方四島交流事業視察訪問団受入れ
- 9 / 6 防災訓練